

2020年4月20日

4月も半ばを迎えました

副校長 竹山 幸男

美しく咲き誇っていた京都の桜も、そろそろ終わりを告げ、少しずつ暖かくなってきた今日この頃です。春の訪れとともに、木々や山々の緑も日に日に濃くなってきています。京都では少し寒暖差のある毎日が続いていますが、皆さんのお住まいの地域はいかがでしょう。

新入生を迎えた4月6日の入学式から、ちょうど2週間がたちました。学校に皆さんが登校して新たな学年を迎えられた風景が今もよみがえってきています。特別なかたちでスタートした新学期も2週間が経過し、学校で行われるいつもの学びとは違うかたちで、皆さんがご自宅での取り組みを始めていただいたところです。第1週（13日～17日）においては、生徒の皆さんにとっても、私たち教員にとってもオリエンテーション期間として設定いたしました。各教科からのオリエンテーションを含めた内容を生徒の皆さんにお伝えしつつ、iPadがしっかりと設定されて課題が届いていることを確認できているかを中心に進めさせていただきました。担任の先生からも、皆さんがご自宅で元気に過ごされているかなど、連絡をいたしました。本日からの第2週（20日～27日）においては、実際に課題を提出していく取り組みになっていきます。課題の提出にあたり、機器の操作等不明な点があれば、学校までご連絡くだされば、折り返し担当者（ICTヘルプデスク担当者）からご連絡いたしますので、よろしく願いいたします。（問い合わせが多い場合は、折り返しのご返答に時間がかかるかもしれませんが、お待ちくだされば幸いです。）第1週目に引き続き、今週も担任の先生からの連絡がありますので、生徒の皆さんはレスポンス（応答）をよろしく願いいたします。生徒の皆さんだけではなく、私たち教職員も、まだまだ慣れていない部分があつてうまくいかないこともあると思います。うまくいかないことを恥ずかしがらずに、そしてわからない場合はご遠慮なく学校（中学校校務センター）までご連絡いただきますようお願いいたします。

第2週目の詳細については、別途ホームページ上の教務部より「第2週目のお知らせ」または学習ポータルサイト上の生徒ページ・生徒伝達に「第2週目のお知らせ」をご覧ください。第1週目にご連絡いたしました「2020年度版ICT活用・情報倫理ハンドブック」（同志社中学校）の1～28ページにiPadでの学習に際してのさまざまな活用ガイドが掲載されていますので、新たな取り組みの際には、参照するようにしてください。（このハンドブックは、4月9日または10日の登校日に配布しております。欠席の皆さんには、学校より10日に送付されています。郵便事情等によりまだご家庭に届いていない場合については、学校（中学校校務センター）まで至急ご連絡ください。）

同志社中学校では、キリスト教主義学校として毎年1年間の「学校からの呼びかけ」と年間聖句を掲げています。2020年度の「学校からの呼びかけ」については、昨年度に引き続き「FOR OTHERS（他者のために）—互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。—」を掲げます。2020年度の年間聖句は、「イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二もこれと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』」（マタイによる福音書22章37節～39節）そして、「受けるよりは与える方が幸いである。」（使徒言行録20章35節）を掲げました。

さて、本日は今年度の聖句の最初の部分「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」についてまず考えてみたいと思います。

学校での礼拝が行われているグレイスチャペルの壁面には、その上の部分に「光あれ」、「神様が私たちを照らしてくださる」というレリーフがあります。グレイスチャペルのステンドグラスにもその様子が描かれています。このレリーフには「神様がいつも見守っておられる」、「神様がいつも見ておられる」という意味があります。太陽がいつも誰にでも変わりなく光を注いでいるように、神様の愛によって、私たちがいつも見守られていることを覚えておいてください。太陽の光は、私たちが意識しようがしまいが、無条件に注がれているものです。それと同じように、神様の恵みと愛は、一方的に注がれているのです。ですから、私たち一人ひとりを愛してくださっている神様をまず意識し、神様の前に静まって自分自身を見つめること。このことが同志社中学校に集う私たちにとって一番大切で、それを養う時間が礼拝の時間です。神様の声を聴く。聖書の言葉を静まって聴く。礼拝の中の、黙祷や祈りの時間。オルガンの奏楽。静まって自分自身を見つめる機会です。迷っていることを祈ったり、進むべき方向性が示されたり、いろいろなひらめきやアイデアが出てくることがあるかもしれません。今は、コロナウイルス感染症予防のため、学校に来ることもチャペルで集まって礼拝を持つこともできません。しかし、聖書を開いて思い巡らしながら読み、その言葉に心を傾けること、そして、神様に祈ることは自宅で一人であるときにもできることです。同志社の創立者・新島先生も「祈りの人」で、うれしいとき、悩んでいるとき、困難に直面しているとき、いつも真剣で熱心な祈りを神様に捧げ、自分の力でなく神様の力によって進んでこられました。そして、自宅での神様への祈りと聖書の言葉にふれる時間を最も大切にされていました。今いる場所で、私たちの心の中のいろいろな想い、願いを神さまに祈ってみることをぜひ始めてみてください。

「神様がいつも見ておられる。」神様は人から見える外側だけでなく心の中まで見ておられます。「人をごまかせても、神様がすべてご存知である」という意識。キリスト教主義学校である同志社においては、「神様がいつも見ておられる」ということを前提に教員も生徒も学校生活を送らなければいけません。一方、人間には弱さ、失敗もあります。それを自分で気づいたとき、指摘されたとき、ごまかさずに神様の前に素直に認め、悔い改

めて新たな出発をすることが大切です。「人は目に映ることを見るが、主（神様）は心によって見る。」（サムエル記上16章7節）私たちは、友達、先生、家族など人の目、周りの目をよく気にすることがありますが、実はそれよりも一番大切なことは、「神様の前に私たち一人ひとりがどうか、心を見ておられるがどうか」であり、これは何度強調してもしすぎることはありません。「神を畏れることが知恵と知識の初めである」（箴言1章7節）という有名な聖句もありますが、目には見えませんが、神様を意識する生活を送ること、自分だけで、自分の力だけで生きていけるのではない、学んでいけるものでないということをしっかり覚えておきましょう。

そして、私たちが毎日の学校生活の中で、また人生の中で、目に見えない神様を信頼していくことが大切です。「目に見えない神様が私たち一人ひとりを愛して、見守って、導いておられる」というのは、私たちが困ったとき、自分ではどうしようもなくなったときにこそ、そのことを教えられるものです。「Footprints（あしあと）」という有名な詩を後から読んでおいてください。（後掲参照）「神様とともに歩む2つの足跡が続く中、一番困難なときに足跡が一つしかない。神様に見捨てられたと思うときは、実は神様に抱かれていて、自分の足で歩いていたのではないのだよ。」と。「何でも自分でできる」という意識を捨てて、神様の前に謙虚になり、神様の見守りと導きに委ねることの大切さが示されています。

コロナウイルス感染症も目には見えない「忍者のようなもの」（ノーベル賞受賞者の本庶先生の言葉）で、科学技術が進んだ現代においても、私たち人間がすぐに解決できるようなものではありません。人と人との接触を避ける、共用するものを避けるというとても原始的で基本的な行動によってしか、当面は感染を予防し、私たちのいのちや健康を守れない、と呼びかけられています。こういう時だからこそ、私たちが一人になったとき、この先どうなるのだろうと不安や心配が出てきたとき、私たちが実は一人ではなく、目には見えない神様がいつも、どんな時でも見守って導いておられることを心にとめましょう。

目には見えないウイルスへの不安・恐れに勝る、目には見えない神様の見守りと導きによる心の平安・平和が与えられるよう、祈りつつ、この1週間もともに歩んでいきましょう。

「私は山に向かって目をあげる。私の助けは、どこから来るのだろうか。私の助けは、天地を造られた主から来る。」（詩編121篇1～2節）

保護者の方々へのご連絡

- 1：5月10日までの臨時休校期間中も「健康観察票」の管理をお願いいたします。クラス担任から生徒の皆さんにも呼びかけがありますが、ご家庭でも提出のご確認をよろしくをお願いいたします。内容によっては、保健部の担当者から直接連絡させていただくこともありますので、よろしくをお願いいたします。
- 2：「学校通信」第2号を保護者のページ（ホームページ）に掲載いたしました。第2号では、同志社中学校での奨学金、授業料減免共済制度についての案内も掲載されていますので、お読みください。詳細ならびにご相談につきましては、学校（学費・奨学金担当者：075-781-7121）にお問い合わせください。※保護者のページは、本校ホームページの「保護者・生徒ログイン」から入っていただけます。
- 3：生徒、保護者の皆さんに対しての教育相談の受付についても、少しずつスタートしているところです。もし、生徒、保護者の皆さんで何かご相談、サポートなどが必要と考えられている場合、学校（中学校校務センター）あてご連絡いただければ、担当者から折り返し連絡させていただきますので、よろしくをお願いいたします。
- 4：今年の夏休みまでの実施予定でありました、海外渡航を含む「国際交流プログラム」については、世界的な感染症拡大の状況に鑑み中止とさせていただきます。その他のプログラム、説明会などについては、学校再開後にあらためてご連絡させていただきます。

【ご案内】

同志社中学校 校務センター

《電話》075-781-7253 《FAX》075-781-7254

4月20日（月）・21日（火）・22日（水）・24日（金）の開室時間10：00～16：00

※4月23日（木）は、終日閉室とさせていただきます。

Footprints

One night I dreamed a dream.
I was walking along the beach with my Lord.
Across the dark sky flashed scenes from my life.
For each scene, I noticed two sets of footprints in the sand,
one belonging to me
and one to my Lord.

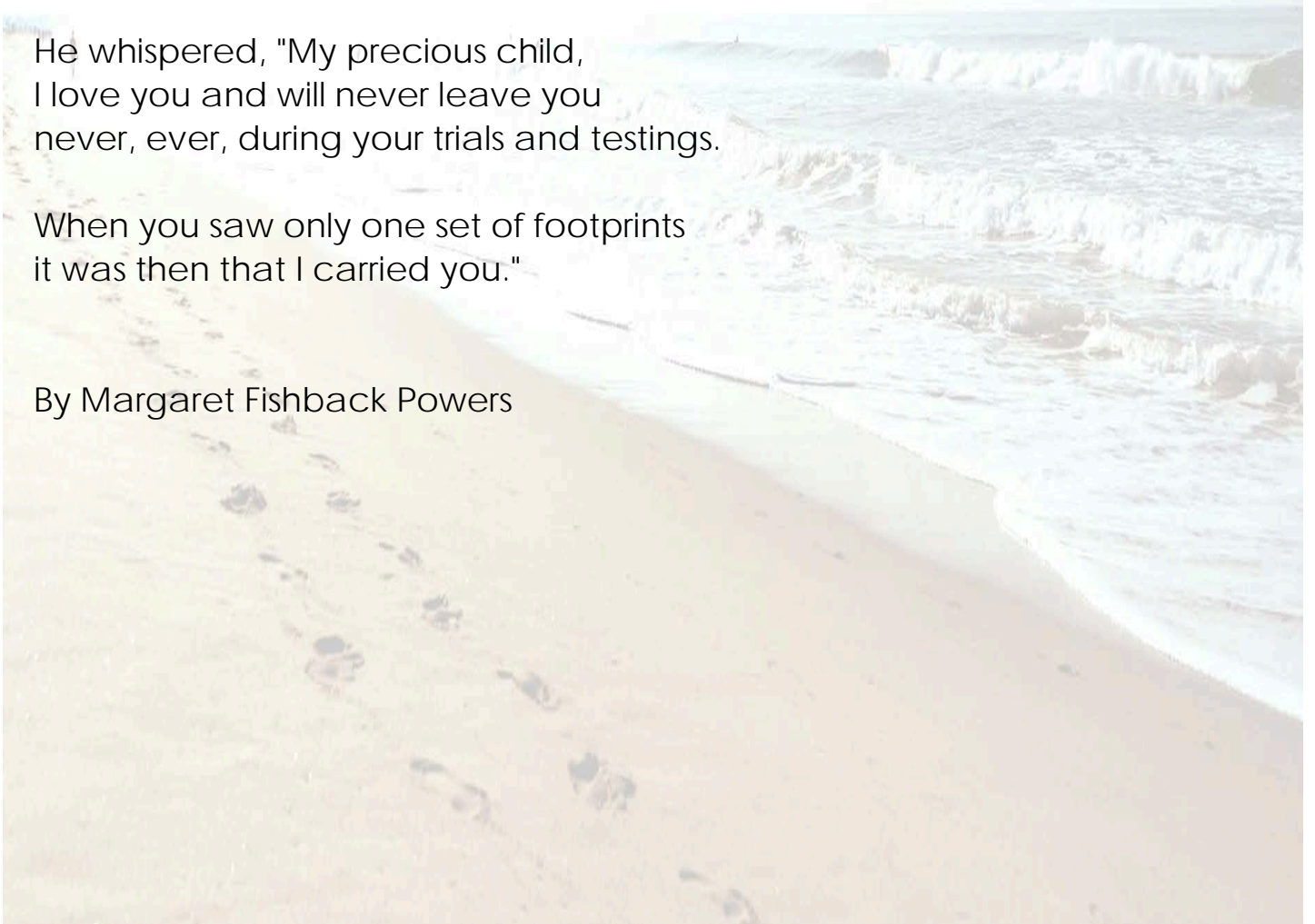
When the last scene of my life shot before me
I looked back at the footprints in the sand.
There was only one set of footprints.
I realized that this was at the lowest and saddest times in my life.

This always bothered me and I questioned the Lord about my dilemma.
"Lord, you told me when I decided to follow You,
You would walk and talk with me all the way.
But I'm aware that during the most troublesome times of my life there is only
one set of footprints.
I just don't understand why, when I needed You most,
You leave me."

He whispered, "My precious child,
I love you and will never leave you
never, ever, during your trials and testings.

When you saw only one set of footprints
it was then that I carried you."

By Margaret Fishback Powers



『あしあと』

ある夜、わたしは夢を見た。
わたしは、主とともに、なぎさを歩いていた。
暗い夜空に、これまでのわたしの人生が映し出された。
どの光景にも、砂の上にふたりのあしあとが残されていた。
ひとつはわたしのあしあと、もう一つは主のあしあとであった。
これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、
わたしは、砂の上のあしあとに目を留めた。
そこには一つのあしあとしかなかった。

わたしの人生でいちばんつらく、悲しい時だった。
このことがいつもわたしの心を乱していたので、
わたしはその悩みについて主にお尋ねした。
「主よ。わたしがあなたに従うと決心したとき、
あなたは、すべての道において、わたしとともに歩み、
わたしと語り合ってくださいと約束されました。
それなのに、わたしの人生のいちばんつらい時、
ひとりのあしあとしかなかったのです。
いちばんあなたを必要としたときに、
あなたが、なぜ、わたしを捨てられたのか、
わたしにはわかりません。」

主は、ささやかれた。
「わたしの大切な子よ。
わたしは、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。
ましてや、苦しみや試みの時に。
あしあとがひとつだったとき、
わたしはあなたを背負って歩いていた。」

マーガレット・F・パワーズ（松代恵美 訳）